

令和7年度東京都特定外生物（キョン）防除対策検討委員会（第2回）
議事概要

1. 開催日時 令和8年3月4日（水）10:05～12:05

2. 開催形式 WEBによるオンライン会議

3. 議事

- 1) 令和7年度の事業進捗について
- 2) 防除実施計画の改定について
- 3) 令和8年度の取組について

4. 出席者

■検討委員

石井 信夫 東京女子大学 名誉教授
織 朱實 上智大学大学院地球環境学研究科 教授（欠席）
加瀬 ちひろ 麻布大学獣医学部 講師
深澤 圭太 国立研究開発法人国立環境研究所 主任研究員

■臨時委員

小池 伸介 東京農工大学大学院グローバルイノベーション研究院 教授（欠席）
佐々木 洋平 一般社団法人大日本猟友会 代表理事会長（欠席）
羽澄 俊裕 元東京農工大学農学府 特任教授

■関係機関

山田 貴訓 大島町役場産業課農業係 係長
本間 政人 関東地方環境事務所伊豆諸島管理官事務所 国立公園管理官

■東京都

加納 大二郎 東京都総務局大島支庁 土木課長
鈴木 雄大 東京都総務局大島支庁土木課大島公園事務所 課長代理
竹田 哲郎 東京都総務局大島支庁土木課大島公園事務所 主任
小田 博之 東京都総務局大島支庁 産業課長
上野 大 東京都総務局大島支庁産業課 林務担当 主任

（事務局）

上中 章雄 東京都環境局自然環境部 野生生物担当課長
照沼 愛 東京都環境局自然環境部計画課 課長代理（野生生物担当）
平井 雅規 東京都環境局自然環境部計画課 野生生物担当 主事

■事務局

5. 配付資料

資料 1-1：令和 7 年度キョン防除事業概要

資料 1-2：令和 7 年度キョン捕獲結果（令和 8 年 1 月時点）

資料 1-3：捕獲事業の評価

資料 1-4：生息状況モニタリングの結果

資料 1-5：希少植物への影響に関する有識者ヒアリングの結果

資料 2：東京都キョン防除実施計画（第 4 期計画）案

資料 3：令和 8 年度 of 取組案

6. 議事内容

（1） 令和 7 年度の事業進捗について

1) 令和 7 年度の事業概要

- 今年度に新たに始められた事業はあるか。

→（事務局） 捕獲報奨金事業と誘引試験調査である。

2) 捕獲結果、捕獲事業の評価

- 令和 7 年度の捕獲カバー率が低いメッシュが増加した理由は何か。

→（事務局） 11 月までの結果であり、年度の途中であるため、今後年度末にかけて増える可能性がある。

→集中捕獲期間にカバー率が高いメッシュが増えると考えてよいか。

→（事務局） カバー率の高いメッシュの割合を増やす方向で進めたい。

- カバー率の図の市街地を覆うグレーの部分の凡例の修正が必要である。全捕獲の内訳をタイトルの下に記しておくべき。

- 市街地での張り網の設置を増やしたか。それにより捕獲頭数は増えたか。

→（事務局） 設置が増えて捕獲頭数も増えている。

→市街地では報奨金により箱わなが増えたか。

→（事務局） 報奨金事業とは別に、防除市街地事業で新たに設置して増やしている。

→報奨金事業で増えたわなは全体の中のどの程度か。

→（事務局（東京都）） 報奨金事業の結果については現在精査中で、来年度に報告する。

- 捕獲個体がオスに偏っているのであれば、残存数と個体数推定結果とのずれが大きいと感じる。捕獲方法別の雌雄比は把握しているか。箱わなの雌雄比はどうか。

→（事務局） 捕獲個体の雌雄比の影響はおそらくあると考えている。課題としては認識している。捕獲方法別の雌雄比は把握している。箱わなはオスの捕獲割合が高い傾向にある。

→銃器以外の方法ではオスが多いことは問題である。島全体にキョンが広がって数が増えた結果であるため、多く捕獲できたから良いという話ではない。CPUEが顕著に低下している捕獲方法がないため、効率的な捕獲方法を早急に導入する必要があるが、足くくりわなの導入に一定の期待ができる。本来は捕獲カバー率が100%になっていないとなかなか効果が出てこない。INLA法の結果と生息状況モニタリングの結果との関係の考察が重要になる。

● INLA法の結果の合計値の推移の図は示しているか。

→(事務局) グラフは作成していない。

→令和7年のハーベストベースドモデルによる個体数推定の結果はあるか。

→(事務局) 現在作業中である。

→INLA法ではデータに追従する結果が出て、一方でハーベストベースドモデルでは捕獲効果の評価も同時にできるという点で総合的な位置づけになる。

3) 生息状況モニタリングの結果、希少植物への影響に関する有識者ヒアリングの結果

● 個体数が減らない理由としてはメスを捕獲し残している点が多い。3箇年で激減させるために最低限どの程度の捕獲が必要か予測しているか。個体数推定の結果にかかわらず、必要な頭数は捕獲しなければならない。

→(事務局(東京都)) 来年度からの3箇年の集中捕獲期間に合計で1万5千頭以上は捕獲しなければならないと考えている。新たな方法等でメスの捕獲と捕獲頭数の確保に取り組みたい。

→張り網での捕獲が多いので、それで捕獲目標を達成しても不十分である。技術的にはチャレンジングになるが、雌雄比を組込んだハーベストベースドモデルは有効かもしれない。

→張り網で多く捕獲している場所ではメスの撮影率が高いといった関係は見られるか。

→(事務局) おそらく張り網による捕獲の影響はあると思われる。メスの撮影割合の高い調査地点は島内の様々な場所にある。

→メスが多く残っているので、結局多く捕獲しても減少効果が薄いと感じる。例えばメスを現状の2倍捕獲しようとするのと捕獲努力をどうするか検討する必要がある。

● 糞粒密度とセンサーカメラの撮影頻度の傾向が一致する場所と一致しない場所があるが、原因は検討したか。

→(事務局) 過去から結果が異なることはあり、原因は不明である。近年は柵や張り網が増えて局所的にキョンの行動が変わって結果に影響を及ぼしている可能性がある。

→まだ全体的には横ばい傾向という結果といえよう。個体数を減らすために必要な最低限の捕獲頭数から目標値を決めていくことが必要。

→糞粒密度とセンサーカメラの撮影頻度の結果が一致しないことについて、キョンが糞場を作るケースがあるかもしれないと感じており、それが影響している可能性がある。

(2) 防除実施計画の改定について

- 先の個体数推定に関する議論の結果を取込むことで生息状況に関する記述が具体的に
なり、戦略や戦術が修正できるとよいと感じた。
- (事務局 (東京都)) 第 4 期計画が 4 月 1 日からのため、時間的には反映は難しい。年
間の事業実施計画の中で捕捉する形で対応したい。
- それでお願いしたい。
- 計画期間中に計画を見直ししていくことは書かれているか。
- (事務局) 見直しの際には検討委員会で議論するという事は書かれている。
- 大幅な見直しも行っていくことも念頭に置いてこの計画を進めていけるとよい。
- 予測と現状評価に基づいてこれからかけるべき努力量を決めていくタイミングが大事に
なる。いつまでに結果を出して検討委員会で合意するのか、予算要求のスケジュール
に合わせて動かしていくよう留意するとよい。
- 個体数推定の結果の図はインパクトが強く、個体数が減っているという印象を与える。
令和 7 年の推定結果を加えるとこの傾向が変わるなど、書きぶりに関して考えている
ことは何か。
- (事務局) 推定結果よりもさらに低い水準にまでは個体数を落とせていないという評価
である。
- 現場感覚では減っている感覚がなく、捕獲結果や生息状況モニタリングの結果も推定結
果とは異なるとの印象を持つ。実際の生息数を反映しておらず、減少傾向とは言えな
いのではないか。
- (事務局) ハーベストベースドモデルでの推定についてはデータの制約や、モデルに課
題があることはこれまでも指摘されてきており、その認識である。モニタリング結果
なども含めて、現状としては大幅に減らすまでには至っていないととらえたい。
- それは問題で、この推定結果からはキョンが減少しているとは判断できないとの書き方
の方が良い。
- ハーベストベースドモデル自体は完全なものではなく、様々な課題があることも認識し
ておかなければならない。実際のデータとどのくらい合っているか、モデル診断も大
事になってくる。意思決定に使っていくモデルにはある程度課題がありつつも、同時
並行でモデルを改善して、ある程度うまく軌道に乗ってきた段階で置き換えるとよい。
- INLA 法での推定結果もみたい。
- (事務局) 個体数推定の改善については引き続き検討し、どのような形で示せるのかも
含めて考えたい。
- 計画案の中での書きぶりにも工夫が必要である。
- 3 月末に一旦環境省に提出したうえで、その後に第 4 期計画を差替えるのが PDCA 的
と思った。カバー率の図は修正が必要である。

→来年度のできるだけ早いタイミングで予算要求との関係を考えながら大幅な改定計画を作ることが必要である。

→（事務局（東京都））図は修正する。計画の差し替えは年間の事業実施計画との関係もあるので改めて相談する。

（3） 令和 8 年度 of 取組について

- ネコの問題に関しては頭出しして認識を共有した方がよいだろう。
- 足くくりわなにはネコの問題が関連してくるので、それを意識的に表明して住民の協力、理解を求めることが重要になる。また、捕獲目標頭数の根拠も示すことが重要と思う。
- （事務局（東京都））令和 8 年度の事業実施計画にネコの問題などを含めて盛り込めるとよいと考えている。
- 足くくりわな捕獲は防除委託（捕獲空白域・急傾斜地捕獲）ですべての地域を対象に実施するのか。
- （東京都）防除委託（捕獲空白域・急傾斜地捕獲）はこれまでに銃器や張り網などで捕獲ができていなかった場所や急傾斜地で捕獲を行う。銃器捕獲事業に関しては今のところ足くくりわな捕獲は考えていない。防除南北と防除市街地ではメニューとしてはできるようにしており、実際の展開については来年度に検討しながら進めたい。
- 足くくりわなはテクニカルであるため従来事業に組込むのがいいのか考えなければならない。一方で、全島で足くくりわな捕獲を行う事業は効率が悪い。
- 組織銃器捕獲は年度単位で考えると捕獲に入れていない場所があり、そこに防除委託（捕獲空白域・急傾斜地捕獲）が捕獲に入るか。
- （事務局（東京都））現時点では捕獲事業区が設定できない場所を想定している。
- 十分な捕獲圧をかけるということは検討して行ってほしい。
- もう少し詰めなければならない問題については来年度以降も議論を続けていきたい。